

寄稿 **ブラジルにおける商社の取り組み**

(順不同)

**ブラジルの翼、日本の空へ****―ブラジル・エンブラエル社製ジェット旅客機の日本向け輸出**

前田 一郎 (まえだ いちろう)  
丸紅ブラジル会社 社長

**1. はじめに**

日本におけるブラジルのイメージは、残念ながらいまだにアマゾンのジャングル、サッカー、サンバ等が主流である。このブラジルのイメージを根本的に覆すビジネスを、丸紅は移民100周年の記念の年に実現することができた。

それは、ブラジルのハイテク技術の粋を結集したエンブラエル社製ジェット旅客機の日本向け輸出開始である。当社は、エンブラエル社の日本総販売代理店として、2007年に確定12機、追加購入オプション7機を受注した。その第1号機として日本航空向けの引き渡し式典が、移民100周年記念の年である2008年10月初旬に行われることになった。

**2. エンブラエル社について**

エンブラエル (Embraer) 社の正式名称は Empresa Brasileira de Aeronautica S.A.で、1969年にブラジル国営企業として設立され、当初はプロペラ機の製造・販売で成功し、その後94年にブラジルの投資銀行グループを中心に民

営化された。

民営化後、同社は、ジェット旅客機の開発・輸出に成功して飛躍的に業容を拡大し、現在では、世界の民間航空機製造分野において、米国ボーイング社、欧州エアバス社に次ぐ世界第3位の航空機製造メーカーにまで成長した。現在の売上高は53億ドルで、従業員は約24,000人に達し、欧米のみならず東南アジア、中国等世界各地に販売・アフターサポート拠点を設けており、またサンパウロおよびニューヨーク株式市場に上場している、ブラジルを代表するハイテク輸出企業となっている。

また、今回日本向けに成約したEmbraer170/190シリーズ (通称E170/190シリーズ) は、2004年3月より運航されている最新小型ジェット旅客機で、2008年6月末時点で1,674機 (オプション827機含む) を受注し、すでに約410機が世界中で運航されているベストセラー機種である。同シリーズは、小型ながら乗客1人当たりの客室スペースと貨物スペースは、ボーイング737型機以上で (客室スペースで4%、貨物スペースで32%アップ)、航続距離は4,445kmで、日本-マニラ間など近距離アジア路線にも対応可能である。また、競合他社と異なり、70~90席クラスの機種 (E170シリーズ) だけでなく、90~120席クラスの機種 (E190シリーズ) をファミリー機種としてラインナップに加え、世界の航空会社の幅広いマーケット需要に柔軟に対応できることも、ベストセラー機種となっている大きな要因である。

また、このシリーズの開発には、多くの日系ブラジル人技術者が関与している。現在、新技



日本航空向けエンブラエル社E170型機と同機の広いキャビン

術開発担当副社長で技術系トップであるヨコタ氏をはじめとして、ITA（Instituto Tecnológico de Aeronautica：理系ではブラジル最難関の航空工学専門の大学）など一流大学卒の多くの日系エンジニアが同社で活躍しており、彼らの存在なしにE170／190シリーズの成功はなかったと言っても過言ではない。

### 3. 丸紅のエンブラエル機販売戦略

当社は、2010年から供用開始予定の羽田空港拡張による発着機拡大を視野に販売活動を続けてきたが、2007年2月に日本航空からE170（76席）の確定10機、追加購入オプション5機を受注し、2007年6月に正式契約に至った。同年9月には、2009年開港の富士山静岡空港を拠点としてエアライン事業に新規参入する鈴与からも、E170（76席）の確定2機、追加購入オプション1機を受注した。

言うまでもなく、航空会社が機種を増やすことは大きな設備投資・コストを伴う。日本航空グループや全日空グループなどは、以前から50席ジェット機や74席プロペラ機（いずれもカナダボンバルディア社製）を運航していたことから、エンブラエル機の販売は容易なものではなかった。

しかし、航空会社各社はサービス向上戦略を打ち出しており、エンブラエル社製ジェット機はプロペラ機よりも客室の快適性が高く長距離

運航に向いていることから、日本の航空業界から興味を示していただいた。また、実機デモンストレーションやデモフライトなどを実施して、E170／190シリーズの特徴である、同サイズの競合機に比して圧倒的に客室が大きく快適性が高いことをアピールし、成約に結び付けた。

さらに、昨今のパイロット不足は、日本のみならず世界的にも深刻な問題となってきており、各航空会社では新たな航空機を導入する際のパイロットの新規確保が、大きな課題になっていたことより、当社はエンブラエル社と共同でパイロットの派遣スキームを構築し、日本での販売活動における重要なツールとしてきた。

### 4. 最後に

当社は、E170／190シリーズの日本国内での潜在需要は大きいとみており、今後も販売機数を増やすことで、日本の航空サービスの発展に微力ながら寄与していきたいと考えている。日本航空向けE170の日本での実際の営業就航は、2009年初頭に予定されている。ブラジルの翼が、移民100周年を経過した日伯友好関係の象徴として、日本の空を飛行する日が、間近に迫っている。日本の多くの人々にブラジルハイテク技術のシンボルであるエンブラエル社製ジェット旅客機に搭乗していただき、ブラジルの新しいイメージを抱いていただければ幸いである。 